

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:14 (70%) ②:6 (30%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:8 (40%) ②:12 (60%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:7 (35%) ②:11 (55%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:1 (5%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:11 (55%) ②:8 (40%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:8 (40%) ②:12 (60%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:13 (65%) ②:6 (30%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:5 (25%) ②:7 (35%) ③:8 (40%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:4 (20%) ②:8 (40%) ③:6 (30%) ④:2 (10%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:6 (30%) ②:13 (65%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:6 (30%) ②:13 (65%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B（問 14～18）：FD活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 5 (25%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 17 (85%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 1 (5%)
- ④その他： 0 (0%)
- 未回答： 2 (10%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 9 (45%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 16 (80%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 2 (10%)
- ④その他： 0 (0%)
- 未回答： 3 (15%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：13 クラス（順不同）

- [1] クラスサイズを 80 人上限に近づけるようにした。
- [2] 昨年度は、受講希望者全員を受け入れたため、300 名近い人数になり、遅刻する者、期間半ばで受講しなくなった者などが多数出てきた。そのため、講義をスムーズに行うことが困難であった。今年度は、受講人数を 150 名程度に制限したため、それらの問題はかなり解消したように思える。
- [3] 毎年、参加学生が多様化し、対応に苦慮している。オリエンテーションに参加しない学生への対応を今後検討したい。
- [4] 当初 4 名で実施していた内容を今年度から 3 名で分担して行うようになった。少し負担が増え始めている。
- [5] 資料の更新
- [6] 昨年は常に細かいレジュメを配布して、学生が予・復習をしなかったため今年度はポイントだけを打ったレジュメを配布した。
- [7] 授業内容の焦点が分かりにくいという意見が複数あったので、パワーポイントの資料を作り直し、内容も絞り込むようにした。また、多人数の授業のため、受講生とのコミュニケーションがとりにくいので、リアクションペーパーを活用するなどの工夫を行った。
- [8] 滑舌が悪くならないよう注意して話した。
- [9] 学生の理解度やレベルを踏まえて講義を行うよう努めたが、今年度は受講生の所属学部構成が昨年度までとは大きく変わっていたため、必ずしも当初の目標のとおりには実行できなかったと思う。
- [10] 「文学」の苦手な工学部の学生が大多数だったので、かなりレベルを下げ、丁寧な解説をしたつもりだったが、肝腎のノートを全く取っていなかったらしいので、あまり効果は上がらなかった。
- [11] 受講生に問いかけつつ、理解度を確認しながら授業を展開する。そのプロセスによって、用意した授業内容を加減する。多くの場合は少なめにして対応した。
- [12] 作業レポートの課題を課した。
- [13] 15 回の講義内容と定期試験の問題との関連性を高めたこと。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 6 クラス（順不同）

[1] 毎時配付する穴埋め式のプリントは好評であった。

[2] パワーポイントや配布資料を工夫し、わかりやすい授業を心がけた。

[3] 到達目標の周知が不足していたかもしれない。

[4] 受講者が多く、大講義室でグループディスカッションを行った。学生による評価ではその点への不満が聞かれた。

[5] 複数教員で担当している科目であるが、今年度で、担当教員のうち、神田教授、位田教授、岩本理事が退職予定であるため、次年度は今までと同様の内容での実施が困難である。また、基礎科目のカリキュラム変更によってこの科目の受講生が大幅に減少したことから、来年の実施内容については大きく変更しなければならないと考えている。

[6] 本講義は、アクティブラーニングを取り入れており、今回は実際に地域社会での 1 泊 2 日の現地調査を行った。講義としての内容はかなり濃く、地域の方からも概ね好評であったが、今後継続していくとすると、地域への負担が大きくなると感じた。回を重ねるごとに、大学も地域も win-win となるような仕組み作りが必要であると思慮する。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19～21)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 12 (60%) ②いいえ： 8 (40%) 未回答： 0 (0%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

①聞いて理解する： 3 (15%)

②読んで理解する： 7 (35%)

③自分の考えをまとめて話す： 3 (15%)

④自分の考えを文章にまとめる： 7 (35%)

⑤討論する： 1 (5%)

⑥皆の前でプレゼンテーションする： 2 (10%)

⑦その他： 3 (15%)

・・・「討論を通して得た発見を自分の考えに反映させる」「問いかけに反応する」「意思表示を行う」

未回答： 8 (40%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 7 クラス（順不同）

[1] グループディスカッション。論述形式の定期試験。

[2] 学生に作業等を実施させて、その得られた情報からレポート等を作成させるように心がけている。

[3] 毎回の講義毎に、野外講義の内容と自分の考え・感想をキャンパスノートの裏表を使ってミニレポートを書いてまとめることを行わせた。このミニレポートが評価対象となる。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）H27 前期 まとめ 学士力発展科目

[4] 博物館見学レポート作成に当たっては、訪問した博物館の係員などに積極的に質問等を行うように指導している。

[5] ・地域の方へのインタビュー

・地域の方とグループを形成した現地調査

・地域の方へ向けた調査発表会の実施及び質疑応答

[6] 講義の初回に計40ページ程度のプリントを渡し、これを読んで理解の助けになるようにした。・・・2クラス

D (問 22~25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 8 (40%) ②いいえ： 11 (55%) 未回答： 1 (5%)

問 22 で「はい」の方は問 23~25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回： 4 (20%) ②6～10回： 2 (10%) ③11～15回： 2 (10%)
未回答： 12 (60%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 3 (15%) ②政治・経済・産業： 3 (15%) ③自然環境・フィールド体験： 8 (40%)
④その他： 0 (0%) 未回答： 12 (60%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 4クラス

[1] 地域の問題をかなり盛り込んだ内容となっている。

[2] 具体的な事例として、常に地域の博物館の取組等を取りあげ、また博物館等で開催される企画展についての情報も紹介している。また、今年度は各回の授業の終わりに、宮崎県指定文化財から特に異色のものを1件ずつ紹介した。

[3] 本講義は、アクティブラーニングを取り入れており、今回は実際に地域社会での1泊2日の現地調査を行った。講義では「地元学」を基軸として、その地域にある「あるもの探し」を実施し、地域の方の気が付かない若者ならではの目線でその地域に特徴のあるものについて調査した。

[4] 4月28日 福山、小林、井戸田 他 <いのちと暮らし> バス; 牧場の体験学習

5月12日 位田 他 <いのちと暮らし> ガーデニング講座: 野菜を作って食べてみよう

5月19日 神田 他 <身近な環境> バス; 大淀川の自然学習

5月26日 西脇、神田<身近な環境>キャンパス内の生き物観察、動植物

6月 2日 國武 他 <いのちと暮らし>ガーデニング講座: ブルーベリーの鉢植え

6月 9日 位田 他 <いのちと暮らし> ガーデニング講座: 野菜を作って食べてみよう

6月23日 松尾 他 <いのちと暮らし>バス; 水田から食と環境を考える, 田植体験

6月30日 高木 他 <身近な環境> バス; 森林の成り立ちと働き: 間伐体験

7月 7日 高木 他 <身近な環境>バス; 森と人間のかかわり: 下刈り体験

7月14日 神田 他 <身近な環境> バス; 加江田川河口で魚類調査

7月28日 岩本、神田、西脇 <身近な環境> バス; 船塚ビオトープでの自然観察、まとめ、授業評価